

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 鴨生田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

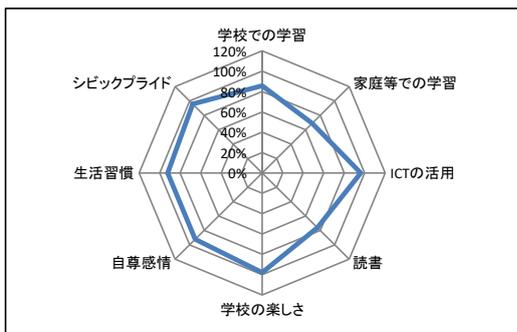
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	情報の扱い方に関する選択問題の正答率は、全国平均を少し上回った。言葉の特徴や使い方に関する問題や記述式の問題では、正答率が低く、特に書くことに関して課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報の扱い方に関する問題 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題 目的に応じて、文章と図表等結び付けて、必要な情報を見つけて、理由にしてまとめて書く問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	データの活用に関する問題は、正答率がやや高かった。図形・測定・変化と関係に関する問題は、思考・判断・表現についての問題の正答率は低く、課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題	
	努力が必要な問題	図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する問題 割合の意味を理解し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱とする領域については、温度による水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解する問題は正答率が高かった。「エネルギー」を柱とする領域の問題は、知識・技能の面で課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現する問題	
	努力が必要な問題	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかをみる問題 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
学校の楽しさ、ICTの活用、シビクブライドについては、肯定的な回答の割合が高かった。自尊感情の項目の中の、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに対しては、約95%の児童が肯定的な回答をしている。たてわり活動のなかよしグループで異学年との交流を通してリーダーシップを発揮する場面が多くあったことも自己有用感を高めたと考えられる。	
・ 学校での学習においては、「授業で工夫して発表すること」や「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」について課題が見られた。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びができるように、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。	
・ 家庭等での学習については、勉強や読書をする時間が全国平均を大きく下回っている。勉強や読書ができる環境を整え、学習に向かう意欲を高める方策を	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では、授業や家庭学習で言葉や漢字の基礎基本が定着するようにする。目的に応じて、文章と図表等、必要な情報を見つけて、書く場面を学習の中に設定していく。算数科では、式や図表、言葉を用いて問いに対する求め方を自分の言葉で説明する場面を取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

定期的に「家庭学習チャレンジ週間」を設け、GIGA端末の学習アプリを活用して、家庭で個の課題に応じて学習に取り組むことができるようにしている。また、本に親しむ取組を強化して行う。生活習慣については、特に就寝時間に関して課題が見られるので、児童や保護者へ改善課題を示し、啓発を続けていく。